

は し が き

大学が大きな変動の時代に入り、そのなかで大学生協も激しく揺さぶられています。そしてその背景にあるのは、日本社会だけでなく地球社会そのものの大変動です。

グローバル化と言われ始めて20年余りになりますが、その実質も少しずつ見えてきました。私たちの住む社会がたがいに国境を越えて広がり合い、地球的規模の大きな社会を形成しつつあるのです。

新自由主義に乗ってこの傾向を先取りした投機的資本の横暴ばかりが目につく時期が続きましたが、2008年秋以降の金融危機の経済危機への拡大と深化とともに、その限界と、それを乗り越えて進もうとする大きな流れも目に見える形を取り始めました。アメリカにおける、同年11月の選挙をふまえてのアフリカ系アメリカ人大統領の登場は、その最初のマイルストーンをはっきりと示したものです。

市民民主主義はまだ世界中に行き渡らず、先進諸国ですらまだまだ十分に機能してはいませんが、革命といえるような大きな社会変革が人びとの意思表示にもとづいて進行する過程が、地球上に広がり始めているのです。混迷を続ける日本の政治も、そのなかでだいいにもっと明瞭な形を取っていくことになるでしょう。

大学はほんらい、知のセンターとして、こうした傾向を先取りし、社会にそのあり方・行き方を示さなければならないはずですが、しかし、おそろしく多様に分化しつつ、ものすごい勢いで進む人類知の全貌を把握し整理できないでいるあいだに、それならばむしろグローバル化の流れに投じたほうが、否が応でもこれからのあり方・行き方を示さざるをえなくなるのではないかということで、国立大学法人化に象徴される荒療治にさらされることになってしまいました。

国立大学を中心に、それを「聖域」であるかのように考えて、振り返ってみればかなり安穩とも言われうる活動をしてきた大学生協にとっても、これは激流にさらされるようなことです。私は、大学生協連会長理事に就任して以来、社会学者として主要な研究テーマとしてきたグローバル化についての自らの知見を反省しながら、そのなかに大学と大学生協をあらためて定位し直す営みを続けてきました。

グローバル化の研究といっても、ひたすらマクロなものではありません。「地球的に考え、身近なところで活動しよう Think Globally, Act Locally!」というスローガンが示すように、それはとくに実践的にはマクロなものとはミクロなものとの媒介し、人びとに人間として、そして市民としての、生き方を示すものでなくてはならないのです。なぜなら、大きな流れも人びとの人間としての生き方の集積から生じており、それを受けとめて変えていけるのは、社会のあり方・行き方を決めていく主権者としての市民たちの選択と行動以外にないのですから。

私は副会長時代から、日本各地の大学生協をできるだけ多く見るとともに、広く世界で日本の大学生協と同じようなことをしてきている、組織や人びとの活動を体感しようとしてきました。もし私が、日本のどこかで大学生協の組合員だったらどうするだろうか。また世界のどこかで、日本の大学生協がしているのと同じようなことをするとしたら、どうするだろうか。本書に収めた諸稿の背後でつねに考え続けていたのはこのことです。

会長に就任して4年目になるころまでに、さまざまな機会に話し、それらの録音を起こ

して手を入れたものの分量はかなりのものになりました。本書はそれらのなかから、メインテーマにもっとも深く関わっているものを選び出し、基本的に時系列に沿って配置して編集したものです。

諸稿の元となった発言の名目と年月日を「初出一覧」に示しました。これでお分かりのように、流れは基本的に時のそれに乗ってつくられており、自然なものであると同時に、日本および世界各地の人びととの対話をふまえて創出的なものです。その意味でまさに弁証法的なものといえるでしょう。

第1章で、読者は、この4年間の大学生協の大きな発展を大づかみにすることができます。グローバル化にさらされた大学生協についての直観が、ビジョンとアクションプランづくりをつうじて理性的に明確化され、国際交流をつうじて、「アジアのモデル、世界のモデルに」という、より広くより深い基礎をもった自己認識に展開していく過程を見ることができるはずです。

続く第2章は、こうした大学生協観を獲得してきた著者の、学生から研究者になり大学教員として活動してきた背景を示しています。社会学者としての著者にとってこの大学論・大学生協論はいわば応用社会学ですが、専門的研究者ではない学生・院生・職員・生協職員などの人びとにとっても、この章は生協との関わりが多様性を感じ取る手掛かりとなるはずです。

第3章は、大学生協の現行のビジョンとアクションプランがどのような思いと考えでつくられたのか、いわばビジョンとアクションプランの人間的根拠を示すものです。いろいろな項目が挙げられ、それらのものの網羅的で無難な整理に終わってしまいがちなこの種のものですが、多くの議論をふまえながらもそうはさせまいとした著者の息づかいを感じ取っていただければ幸いです。

これらをふまえて、第4章から第6章までは、会長理事としての著者のこれまでの理事会における挨拶を、時系列に沿って編集したものです。福田源一郎初代会長から、福武直第2代会長、大内力第3代会長、田中学第4代会長をへて第5代会長としての私にいたり、大学生協連の会長は急に「小物」になったなどといわれないように、そういう意識もあって少しでも意味のあることを発言しようとしてきたつもりですが、読者はそれらの幅と奥行きについて自由に判断する「楽しみ」を与えられるはずです。

私としては、これら3つの章をつうじて、私の社会学が大学論・大学生協論への応用として自分で思っていたよりも有効であったこと、とりわけ社会学を狭く限定せず、できるだけ広い学問的背景のもとで構築しようとしてきたことが、予想以上に役立ってきていることを感じており、この感じは、これから私がライフワークとしてまとめようとしている市民のための社会学に、大いに役立ちそうに思っています。

内容的には、この3つの章は、第I章で展開した私の大学論・大学生協論の細部にわたる展開に当たるので、いちいち説明する労を省略し、読者の自由な読み方に任せようと思えます。しかし少しでも、私たちの生きる現代社会をどうとらえるかに興味のある方がたにとっては、この3つの章には、振り返ってみて私自身も驚くほど、ヒントになるさまざまな見方やアイデアが盛り込まれているので、それらについていろいろな形で議論を返していただければ幸いです。

散りばめた11のコラムは、文体も最初から違ったものですが、大学生協連広報誌の求めに応じて、とくに現代の学生について、その多様な生き方とそれらをつうじて模索されて

いるもの、アイデンティティという言葉そのものの有効性が疑われているような時代にそれでもなお求められているもの、に思いをめぐらしながら書いたものです。これらをつうじて、これからの大学と大学生協のあり方を考えていくことに少しでも寄与することがあればと思っています。

末尾に付した資料は、私が第三章の議論をふまえてつくった叩き台に、専門委員会の書記が細部を加え、それに私がさらに徹底的に手を加えたうえで、全国の大学生協の議論にかけ、諸意見を取り込んで仕上げた最終案を、2006年12月の大学生協連第50回総会にかけて採択した、現行のビジョンとアクションプランです。こうしたものを「画餅」にしないために、というのがこの本を出す主要動機の1つでもありますので、どうかこの機会にもう一度お読みいただければ幸いです。

この本の元となった諸発言、およびそれらをこうした本の形にする過程で、多くの方がたのお世話になりました。

濱田康行副会長を初め各地域センター会長および事業連合理事長の諸先生、全国理事の諸先生、および全国の大学生協の理事長その他の諸先生には、それぞれご専門の分野から有益な、また時に鋭く批判的な、ご意見やご助言などをいただきました。また、和田寿昭専務理事、秋山孝比古前常務理事、福島裕記現常務理事を初めとする大学生協連職員の皆さんには、私の発言の舞台設定、録音、その起こし、などから今回の出版計画の細部の詰めと決定にいたるまで、ひとかたならずお世話になりました。全国理事会に出てきている諸氏を初め各地の大学生協の職員の皆さんにも、さまざまな機会にいろいろな形でお世話になっています。

さらに、日本の大学生協の特徴はその学生中心性にあることを本書でも随所で指摘していますが、学生委員長を初めとして全国の多くの学生、院生、留学生諸君にもさまざまな機会にいろいろな形でお世話になりました。私は現代の学生について時にかなり厳しいことを言ってきましたが、それも彼らからたくさん元気をもたらえていればこそそのことです。学生諸君とは今後とも忌憚のない意見のやりとりを続けていきたいと思っています。

そのほか、会長理事の職務上接触する数え切れないほどの人びとにひとかたならずお世話になりました。

私の秘書の井上久美子さんにも、いつもながら、原稿やゲラのチェックなどでお世話になっています。

以上の方がたに心からお礼を申し上げるとともに、本書が少しでも大学と大学生協の発展のために役立つことを願っています。

全国の大学関係者、教職員、学生、院生、留学生の皆さん、本書を手掛かりにこれからの大学と大学生協のあり方について大いに議論し、大学と大学生協と両者の関係をどんどん良いものにしていこうではありませんか。

2009年7月
著者

本書の読み方

はしがきにも書いたように、この本の構成や流れをつくることに著者はかなり苦心しました。最後に索引をつくりながらも、全体の流れができるだけ明瞭になるよう、用語や表現を統一したりなど事後的に手を加えたりもしています。ですから、著者がもっとも望むのは、**最初から最後までページを繰り返しながら読んでいただくこと**です。

しかし、大学改革と大学生協に関心をおもちの方にも、お忙しい方、さまざまな専門の方、教員、院生、学生、留学生のほか大学の職員や生協の職員の方もいらっしゃると思います。そこで、ほんのご参考までに、著者としていくつかの読み方を例示させていただくことにしました。

もっともお忙しい方は、取り急ぎ第Ⅰ章を読んでいただければ、と存じます。それだけでも、急速に進んできた大学改革にたいして、大学生協がどのような考え方で、どのように活動してきたかがお分かりいただけると思います。

つぎに、**第Ⅰ章を読んで大学改革と大学生協に関心を深め、もう少し時間のある方**は、続けて第Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ章を読んでいただければ幸いです。第Ⅰ章がいわば総論であるとする、第Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ章はいわばその詳論です。大学改革と大学生協について理解を深められるとともに、著者の現代社会認識の概要をご理解いただけるのではないかと思います。

さらにもう少し時間のある方は、第Ⅱ章をお読みいただければと思います。大学改革と大学生協と現代社会についてこういう認識をする著者の、個人的背景、といっても社会学者としてそれをできるだけ現代史の展開に照らして客観的、いや相互主観的なものにしようと努力してきた人間的背景が、お分かりいただけると思います。

そして、**さらにあと少しだけ時間のある方**は、第Ⅲ章をお読みください。大きな団体あるいは組織の「ビジョンとアクションプラン」などというものは、無難なゴタクを並べ連ねた通り一遍のものにすぎまい、と置いていらっしゃる方が多いと思います。第Ⅲ章をお読みいただくと、それがそうでないことをご理解いただけるのではないかと思います。この章は、地域社会から国民社会、国際地域社会をへて地球社会にいたるまでの現状把握と将来構想について考え続けてきた著者の、大学生協を対象にしたいわば実例提示です。

以上どの読み方をなさる場合でも、巻末に付した「ビジョンとアクションプラン」そのものをお読みいただくと、以前とは異なった印象をおもちいただけると思います。どうか最後には、グローバル化のなかで急速に進む大学改革と、それに対応しつつ自己変革を遂げようと努力している、現代日本の大学生協の姿をこの資料でお確かめいただきたいと存じます。

大学改革と大学生協

——グローバル化の激流のなかで——

庄司 興吉

目 次

はしがき

本書の読み方

第 I 章 新しい時代に 1

- 1 協同の輪で新しい社会の基礎を！・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
グローバル化の時代(2) 市場化・情報化・コンピュータ化(2)
大きな力と「甲羅のないカニ」(3) 人類全体の共同性の基礎が
できてきている(3) そのうえに協同の輪をたくさんつくってい
く(4) そのための自己変革を(4)
- 2 協同・協力・自立・参加の新しい大学生協をめざして・・・・・・・・・・ 5
21世紀の大学生協(5) 大学生協、社会、大学、大学構成員(5)
格差化、経営努力、多様化、自己変革(6) 日本社会の格差化(7)
大学の生き残り競争(7) 少子化と大学構成員の多様化(7) 聖域
の消滅と競争(8) 協同、協力、自立、参加(8) 市場化に抗する
協同の意味(9) 大学との積極的な協力(10) そのための組織的か
つ財政的な自立(10) そのために必要な組合員の多様な参加(10)
協同・協力・自立・参加としての協同を！ (11)
- 3 協同の世紀と大学生協・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
国内外にわたる積極的な活動(12) ビジョンとアクションプラン
の普及(13) ICA シンガポール総会と協同の世紀(14) ベルリン会
議と日本の大学生協のユニークな価値(15) 協同と連帯のわかり
やすい構造を！(16)
- 4 アジアのモデル・世界のモデルになるために・・・・・・・・・・・・ 17
金融危機から経済危機へ(17) 仮定立としての属性革命の始まり
(17) ポストコロナル・アジアと協同組合(18) 大学キャンパ
ス生協委員会の成立と日本の大学生協の主導性(20) 大学生協の
価値ある歴史と厳しい現状(21) アジアのモデル・世界のモデル
になるために(22)

第Ⅱ章 来し方・行く末

—— 学生・研究者・教員からみた大学と大学生協 —— 23

- 1 社会学の学生から専任講師へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
60年安保と社会学の選択(24) 大学紛争の社会学的研究(26)
- 2 海外留学と大学改革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
アメリカ留学と国立大学への移籍(27) ベルリンの壁の崩壊から
大学院大学化へ(27)
- 3 学説研究と現代社会論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
社会理論史の研究(28) 現代社会論その他(29)
- 4 グローバル化の研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- 5 グローバル化と日本社会の変容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
電子情報市場化としてのグローバル化(31) バブル経済から小泉
改革へ(32) 企業活動の自由化と株主至上主義(32) 格差社会化
はケインズ主義の放棄から(34) 砂時計型あるいはヒョウタン型
の階層構造(35)
- 6 大学改革の経過と現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
大学評価のグローバル化と法人化(36) 電子情報市場化のなかの
大学(38) 生協も市場のなかに(39)
- 7 大学教育と学生支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
学生による授業評価の功罪(40) 「大学の学校化」と教育実績の
内容(41)
- 8 生協との関わり：一組合員として・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
生協へのさまざまな不満(43) だからこそ生協活動に(43)
- 9 生協のもつ新しい意味・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
労働組合と生活協同組合(44) これからの社会の基礎としての協
同組合(46) 一人一票制の革命的意義(46)
- 10 具体的に何ができるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
生協のユニークな競争力(48) 読書文化を支えることも重要(50)
- 11 全国会長理事として・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
固有な歴史をふまえて競争に応ずる(51) 生協はこれからの社会を支え
る市民を育てる(52)

- 12 大学生協のビジョンとアクションプラン・・・・・・・・・・・・・ 53
 連合会も単位生協も改革を(53)
- 13 生協にかかわる学生・院生・教職員の皆さんへ・・・・・・・・・・・・・ 54
 市民民主主義の事業(54) まともな研究と教育をサポートする
 (55) 戦後民主主義を世界に広める(55) フェアトレードをアジ
 アから(56)
- 14 全国の大学運営者の皆さんへ・・・・・・・・・・・・・ 57
 大学構成員のNPOであることにご理解を(58)

第Ⅲ章 ビジョンとアクションプランを創る 59

問題提起の経緯(60)

- 1 なぜビジョンとアクションプランが必要なのか・・・・・・・・・・・・・ 62
 現在と使命との距離からビジョンとアクションプランへ(62)
 - 1) 大学生協が活動しながら自らの歴史的現在を振り返る(62)
 - 2) 歴史的現在を分析し、現在の状況と使命を明確にする(63)
 - 3) 状況と使命との距離を埋めるため、自らの新しい姿＝ビジョ
 ンを未来に投企する(63) 4) ビジョンを現実のものとするため、
 アクションプランをつくり行動する(64) 5) 状況・使命・ビジ
 ョン・アクションプランの関係性の整理(65)
- 2 大学生協内外の状況・・・・・・・・・・・・・ 66
 4つのポイント(66) 1) グローバル化のなかで格差社会化する日
 本(67) 2) 「自立」を迫られ、経営努力を強いられる大学(68)
 3) 「聖域」を失い、新しい行き方を模索する大学生協(69)
 4) 少子高齢化で内部構成を変える学生、院生、留学生、教員、職
 員(69)
- 3 大学生協の使命・・・・・・・・・・・・・ 70
 4つの使命(70) 1) 学生、院生、留学生、教員、職員の協同で大
 学生生活の基礎づくりに貢献する(71) 2) 学びのコミュニティと
 して大学の理念と目標の実現に努力し、高等教育の充実と研究の
 高度化に貢献する(72) 3) 自立した組織として大学と地域を活
 性化し、豊かな社会と文化の展開に貢献する(74) 4) 魅力ある
 事業として組合員の参加を促し、協同体験を広めて、人と地球に
 やさしい社会を実現する(74) 5) 大学生協の使命と英訳すると
 (75)

4 大学生協のビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76

協同のビジョン1：協同の力で豊かなキャンパス生活を創造する大学生協(76) **協同のビジョン2**：協同をつうじて自由なコミュニケーションを促す大学生協(77) **協力のビジョン1**：大学に協力して高等教育と高度研究の発展に貢献する大学生協(77) **協力のビジョン2**：自らも学びのコミュニティとして教育と研究に協力する大学生協(78) **自立のビジョン1**：自立した事業組織とし大学とその周辺社会を活性化する大学生協(78) **自立のビジョン2**：自立した魅力ある事業の展開で豊かな社会と文化の展開に貢献する大学生協(79) **参加のビジョン1**：組合員の参加を促しつつ、協同体験を広めて、人と地球にやさしい社会をつくる大学生協(80) **参加のビジョン2**：組合員の参加を促す運動組織として、国際交流と平和に貢献する大学生協(81)

5 大学生協のアクションプラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82

協同のアクションプラン1：学生、院生、留学生、教員、職員の協同の力で、地場性と全国的ネットワークを生かして大学生活に必要なものを適切に供給する(83) **協同のアクションプラン2**：協同による供給をつうじて大学構成員間のコミュニケーションを活発にし、大学を個性的で多様な人々のコミュニティにする(84) **協力のアクションプラン1**：豊かな生活と活発なコミュニケーションで大学の理念と目標の実現に協力し、個性的で魅力ある大学づくりを後押しする(84) **協力のアクションプラン2**：魅力ある事業として優位性を発揮し、大学に協力しつつ教育と研究を豊かにして、日本の高等教育の全般的底上げに貢献する(86) **自立のアクションプラン1**：大学とともに活力あふれる卒業生を送り出すだけでなく、地域おこしにも貢献する(87) **自立のアクションプラン2**：経営基盤を強化しつつ組織としての自立性を強めて、大学と社会の変化に柔軟に対応し、豊かな社会と文化の展開に貢献する(88) **参加のアクションプラン1**：倫理性を身につけた生協職員を養成しつつ、組合員の参加を促し、協同体験を広めて人と地球にやさしい社会づくりに努力する(88) **参加のアクションプラン2**：生協のさまざまな活動をつうじて人類的課題を考え、参加する場と機会を提供して、国際的相互理解をはぐくみ、平和と環境を守る社会づくりに努める(89) 積極的な討論と実践を！(90)

第IV章 時代を読み、自分を変える 91

- 1 甲羅を大きく強くする 92
新しいグライヒシャルトウング(92) 自分なりの生き方が甲羅
(92) 猿カニ合戦の後日譚(93) 生協は甲羅以上のもの?(93)
- 2 一人一票制の事業体 94
ライブドア事件とメール質問事件(94) 株主至上主義と一株一票
制(94) 一人一票制の革命性と重み(95) 生協は一人一票制の事
業体(96)
- 3 生協の白石さんと庄司さん 97
優しさの文化(97) 過酷な近代化と解析幾何学(98) 幾何学的精
神と繊細の精神(98) 大きな流れに定位することも必要(100) 柔
らかくて細やかな歴史的精神(101)
- 4 コミュニケーションと生協 102
白石さんはメゾコミ(102) メゾコミこそが甲羅(102) シンボリ
ズムに媒介されたメタボリズムが生協(103) ネットワークの海
に浮かぶピラミッド(103) 生協的メディア・リテラシー(104)
- 5 経験を集約し、未来を拓く 105
なぜビジョンとアクションプランなのか?(105) 状況と使命に
引き裂かれる自分(105) 心理的距離を時間的距離に変換する
(106) ビジョンをアクションプランに変換する(107) 分析から
総合へ、下向から上向へ(107) 経験を集約し、未来を開く(108)
- 6 ビジョンとアクションプランの意味 109
ビジョンとアクションプランの上位と個別(109) 形式論理的関係
と弁証法的関係(110) 現実的なものこそ理性的になるように(110)
- 7 開くことと閉ざすこと 111
各地で頑張っている生協(111) グローバル化の影響と防御(112)
アメリカでもプラスとマイナスの影響(112) アジアの大学生協の
つつきの序列(113) 開きながら閉ざすことの重要性(113)

第V章 協同・協力・自立・参加の好循環で協同の世紀へ 115

- 1 祭りを起こし、楽しむこと 116
祭りとしての総会(116) ハレとケ：生成構造と存立構造(116)
大学生協の生成構造と存立構造(117) まつりごとの意味(117) 大

学生協ももっと祭りを！(118) 協同・協力・自立・参加の初心を！(119)

- 2 協同・協力・自立・参加の好循環を創り出す・・・ 119
ビジョンとアクションプランを理解する(119) 好循環の意味(120)
協同をきちんとやっているか？(120) いろいろな祭りを！(121)
協同から協力へ(121) 差異化して個性を出しながら自立を！(122)
自立の中身を固める参加(123) 循環のたびに質を上げていくのが
好循環(124)
- 3 あらためて大学生協の意義・・・ 125
大学生協の姿を正しく知ってもらう(125) 学生支援の国際比較
(125) 国家社会主義型・修正資本主義型・協同組合理型(126) 独
仏の学生支援の功罪(127) アメリカの学生支援の功罪(127) 日
本の学生支援を圧迫する国家と大学(128) 日本の大学生協の奮
闘(130) 日本モデルを東アジアへ(131)
- 4 協同こそが新社会の芽！・・・ 132
学生支援と生協をめぐる国内外の会議(132) 現代世界のすさまじ
い動き(132) 世界支配システムと中国およびインド(134) 市民
社会における協同の新しい意味(135) 協同の視点からの20世紀
世界史の再解釈(136) 日本の大学生協の歴史的意味(137)
- 5 協同主義と連合主義・・・ 137
生協をめぐる会議とグローバル化についての国際シンポ(137)
協同こそがすべての基礎(138) 生協の組織と事業(139) 相互主
義と連合主義の例(139) 民主的な協同・連合主義(140) グロー
カリズムの実践(141) 日本の協同・連合主義を世界へ(142)
- 6 協同の世紀へ・・・ 142
国際協同組合同盟総会と日本の大学生協(142) 大学生協委員会
の自立とワークショップの成功(143) ICA 総会の積極的な成果
(144) 征服と略奪から企業と収益へ(145) 搾取と労働組合、お
よび新しい国内植民地(145) 協同と新社会形成、協同の世紀へ
(146) わかりやすい組織改革を！(147)

第VI章 危機と変革の時代の大学生協 149

- 1 あらためて協同の意味・・・ 150
4種のキョウドウ(150) 共働は共同の基礎(150) 共同は社会生
活の基礎(152) 帝国から市民社会へ(152) 労働者市民社会と協

- 同組合(153) 協同と共同、および協同と協働(153) 協同・協力・
自立・参加(154)
- 2 大学生協をユニークな場所に・・・ 155
「空間」と工業・産業(155) グローバル・グライヒシャルタウン
グ(155) 大学：研究と教育のコンビニ化？(156) 場所としての
「遠野」(156) 大学生協も場所だった(157) 場所性を取り戻そう
(157) 大学生協をユニークな場所に！(158)
- 3 協同を協同「する」こと：機能統合の意味・・・ 158
インドネシアの大学生協(158) 日本への熱い視線(159) 二重の
課題：共済問題と連合問題(160) 「機能統合を推進」から「機
能統合した運営」へ(160) 実体から機能へ(161) 「である」こ
とと「する」こと(162) 理念は明らか：協同主義と連合主義の
弁証法(162) 「である」ことにこだわらず、「する」ことをして
いこう！(163)
- 4 自らを開いて世界に進み出る・・・ 164
弱い学生、男ばかりの生協(164) 学生が弱いのも、男ばかりも
事実(166) おまけに「内向き」も事実(167) 少子高齢化は「歴
史の狡智」(167) 外国人の受け入れを留学生から(168) 心を開
いて世界のことを考える(169) 大学生協の役割(170)
- 5 連帯の力・事業・競争力・・・ 170
グローバル化のなかの大学生協(171) 日本の大学生協の原構造
(171) 事業をつうじて生き残りとは拡大(172) 大学生協職員の
役割(173) 金融危機のなかの「属性」革命(173) 協同・協力・
自立・参加という理念の意味(174) 機能的再編をつうじての競
争力の強化(175)
- 6 身体で思い出してほしいこと・・・ 176
新生協マークの意味(176) 参加が最初？(177) 生協職員の問題
(177) 生協労組のこと(178) 組合員自身の問題(178) 学生が大
学の基礎(178) 初心を思い起こす祭りを！(180)
- 7 危機と変革の時代の大学生協・・・ 180
まえおき(180) 自分の身体で考える(181) 資本主義の原形復
帰？(181) グローバル情報社会(182) 市民民主主義の普及(182)
国際ケインズ主義(183) グリーン・ニューディール(184) メデ
ィアに乗る(184) 良い政府をつくり、国際ケインズ主義に絡む
(185) グリーン・ニューディールを拡張する(185) 協同方式を広

げる(186) 大学生協の方向(187) こちらこそが内部なのだという協力(187)

コラム 揺らめくキャンパスライフ

- ①環境問題をとおして平和の問題へ 25
- ②生協の施設と運営 37
- ③荒れ狂う大海に乗り出す 49
- ④資金稼ぎだけでなく、身を入れてやってみる 61
- ⑤生協活動もサークル活動のように 73
- ⑥コミュニケーションの場としての施設 85
- ⑦与えられた「自由」を本当の自由にしていく主体性 99
- ⑧将来に生きる消費者教育を！ 129
- ⑨食をつうじて生態系内在性の体感を！ 151
- ⑩協同・協力・自立・参加の樹 165
- ⑪自立を強める新しい文化を 179

《参考資料》

- 21世紀を生きる大学生協のビジョンとアクションプラン
——協同・協力・自立・参加の大学生協をめざして—— 189
- 序論 提案の背景と前提
- 1 「ビジョンとアクションプラン」改訂の必要性和意義
 - 2 大学生協内外の状況
- 本論 21世紀を生きる大学生協のビジョンとアクションプラン
- I 21世紀を生きる大学生協の使命
 - II 21世紀を生きる大学生協のビジョン
 - III 21世紀を生きる大学生協のアクションプラン

初出一覧 219

事項索引 221

人名索引 227